

第6学年国語科指導案

1 日 時 令和3年11月19日(金) 2校時(9:35~10:20)

2 学年・組 第6学年1組 (21名)

3 単元名 おすすめの名画を推薦しよう
『鳥獣戯画』を読む 日本文化を発信しよう

4 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。((2)イ) (知識及び技能)
- (2) 引用したり、図表を用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)エ)
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。(C(1)ウ) (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

5 単元で取り上げる言語活動

『鳥獣戯画』を読むから学習した論の進め方や意見の述べ方を活用して、大塚美術館「人気名画ベスト10」の中で自分のお気に入りの作品のよさを伝える推薦文を書く。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	① 「書くこと」において、引用したり、図表などを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ② 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表など結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)	① 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、自分の考えが伝わるように工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって推薦文を書こうとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、これまで、説明的な文章を読むことでは、筆者の主張やそれを支える根拠について捉えることができ、事例や理由を加えることで、主張に説得力を増すことができることを理解してきた。しかし、筆者の論の進め方のよさに気付くまでには至っておらず、なぜその事例を挙げるのか、文章と図表などを結び付けて読んだり、事例と事例との関係性などを読み取ったりすることができていない。

書くことにおいては、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考え、書くことができる。しかし、自分の考えがより伝わるように引用したり図表を用いたりして表現方法を工夫したり、詳しく表現したりすることができる児童は少ない。どのような文章を書くと自分の主張を伝えることができるのか分かっておらず、読み手を意識して、分かりやすく書くことはできていない。

(2) 教材観

本単元は読むことと書くことの複合単元であり、単元全体のめあてとして「書くこと」を設定することで、児童は読み手としてだけでなく、書き手の立場も意識して読むことができるものである。まず「『鳥獣戯画』」を読むから筆者の表現の工夫や論の進め方など読者を引き付けるための工夫について考えさせることができる。その後、読み取った工夫を用いて書く活動を行うことで自分の考えを効果的に伝える方法について理解することができるようになると考えられる。

(3) 指導観

本文には、絵と文章とを対照して、筆者が何に着目し、それをどのように評価しているのか、筆者のものの見方や考え方が工夫されて表現されている。文章中の逆説や累加、限定、体言止めなどの強調表現や語りかけるような調子で書かれていることなどを読み取らせていく。また「書き出し」「絵の出し方」「文末表現」などの表現や論の進め方の工夫のよさにも着目させていきたい。

言語活動としては、修学旅行で行く大塚国際美術館「人気名画ベスト10」の中から自分のお気に入りの作品を選び、その作品の推薦文を書く活動を設定する。作品を事前に調べ、そのよさを友達に伝える活動を行うことで、読み手を意識して、作品のよさが伝わる文章を書かせることができると考えられる。自分がなぜその絵を選んだのか、絵をどのように捉えたのかを図画工作科の鑑賞の学習でまとめさせ、文章を書く際に活用できるようにする。また、自分が選んだ作品のよさを伝えるための効果的な工夫を取り入れて書くことができるように、これまで学習した表現の工夫を掲示し活用させていきたい。

8 単元の指導計画（11時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> ○廊下に大塚美術館コーナーを作り，作品と出合わせる。 ○大塚国際美術館について調べる。 ○人気名画ベスト10について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画を掲示する場所を設け，児童が絵に興味や親しみをもてるようにする。 	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○『『鳥獣戯画』を読む』の表現の工夫をいかして，大塚美術館の作品の中から自分のお気に入り作品のよさを紹介する文章を書く学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の題名から絵を「読む」とはどういうことか考えさせたり，単元後半の推薦文を書くことを提案したりして課題意識をもたせる。 	
二	2	<ul style="list-style-type: none"> ○教材文から筆者の論理（考えと理由，具体例）を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の大まかな内容や構成について捉えさせる。 	<p>◎図などを使った情報と情報との関係付けの仕方について理解している。〔知①〕 【観察・プリント】</p> <p>◎目的に応じて，筆者の伝えたいことと，絵などの資料の使い方や表現の工夫，論の進め方との関わりを捉えている。〔思②〕【観察・プリント】</p> <p>◎文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ることに粘り強く取り組み，学習の見通しをもって読もうとしている。〔主①〕 【観察・プリント】</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の「絵についての評価」と「絵巻物についての評価」を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵」「絵巻物」に対する評価が分かる叙述に，別々の色を使って線を引かせて，視覚的に捉えられるようにする。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○「論の展開」「文末表現の工夫」「絵の示し方の工夫」について気づいたことを書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p150下段¹を参考に，表現の工夫や効果を捉えさせる。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○「調べた情報の用い方」を読み，著作権への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引用や出典などの既習事項は簡単に確認する程度でよい。 	

三	6 ・ 7 ・ 8 9 本 時 ・ 10	<p>○大塚美術館作品紹介の資料を基に、自分が推薦する作品を選ぶ。</p> <p>○作品について調べ、推薦文づくりの構想を練る。</p> <p>○推薦文の構成を考え、推薦文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに資料を提示し、作品への興味や関心を引き出させる。 ・インターネットを用いて自分の選んだ作品について詳しく調べていく。 ・何を伝えたいのか、作品のよさについて自分の考えを箇条書きさせていく。 ・『鳥獣戯画』を読むの構成を例示し、参考にさせる。 ・これまで学習した表現の工夫を提示し、それらを用いて推薦文を書かせる。 ・前時に書いた児童の作品を紹介し、よさを確認した上で、続きを書かせていく。 	<p>◎引用したり、絵や写真などと文章との組み合わせを考えたりして、自分が選んだ作品のよさが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>[思①]【発言・プリント】</p> <p>◎自分の考えが伝わるように工夫して書き表すことに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって、推薦文を書こうとしている。</p> <p>[主①]【発言・プリント】</p>
四	11	○推薦文に対する感想を伝え合い、単元の振り返りを行う。	・感想を伝え合う際には「たいせつ／いかそう」と関連付けてまとめる。「ふりかえろう」では「読むこと」の観点もあることに注意する。	

9 主体的な伝え合いのために

主体的な伝え合いを行っていくために、児童が自ら伝えたいと思えるよう、児童一人一人が自ら選んだ作品の推薦文を書くという言語活動を設定した。学校行事の修学旅行と関連させ、本単元と並行して大塚美術館やその施設にある作品について調べさせていく。それらの中から、自分のお気に入りの作品を選び、作品の魅力を伝えるという目的を明確にもたせることで、児童が積極的に学習に取り組んでいくと考える。

書く活動においては、作品を選んだ理由やその作品の魅力など自分の考えが伝わるか、毎回ペアで相互に評価させていく。ペアでの交流を行う際に、チェック項目を作り、適切な評価を行ったり、推薦文のよさを評価したりできるようにする。

<主体的な伝え合いを目指す指導系統表>

	低学年	中学年	高学年
目的	・友達のよいところを見付ける。 ・友達と話をつなげる。	・自分の考えと友達の考えを比べる（共通点・相違点）。	・自分の考えを広げたり、まとめたりする（整理・関係付ける）。
方法	・ペアトーク	・グループトーク ・学級全体で話し合う。 （司会を立てて、順番を決めて等）	・フリートーク ・それぞれの立場から伝える。
内容	・友達と確かめる。 ・感想を伝え合う。 ・紹介する、説明する、報告する。	・グループに分ける。 ・調べたことを伝え合う。 （説明、報告等）	・意見や提案を伝え合う。
場	感想の交流・集団解決・振り返り・発表会・報告会 など		
伝え合いを日常的に継続的に支える取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀^{てん}っ子10（まなびの約束） ・ 亀崎メソッド ・ 亀崎いっぱい運動（時間いっぱい話す・文をいっぱい読む・マス目いっぱい書く） ・ 聞き方名人・話し方名人（つながり発表） ・ 読書の記録（「言葉のたから箱」のことばを使って書く。）年間20冊以上を目標 		

10 本時の学習（第三次9時）

(1) 目標

自分が選んだ作品から読み取ったことを複数の根拠や事例を挙げたり、書き表し方を工夫したりして推薦する文章を書き、作品のよさを伝える。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 本時のめあてを確認する。	・前時までの学習の流れがつかめるような掲示をする。	
めあて 学んできた技を生かして推薦文を書き、自分が選んだ作品のよさを伝えよう。		
2 学んできた技を確認し、どの技を使うか考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫を用いて①、②段落を書いている児童の文章を紹介し、学んできた技を確認させる。 ・作品のよさを伝えるために、どの技を使えば効果的か考えさせる。 	

<p>3 選んだ作品について推薦文を書く。</p>	<p>・「構成」「視点」「表現方法」など項目に分けて表現の工夫を確認させる。</p>	<p>◎読み手に選んだ作品のよさが伝わるように表現を工夫しながら推薦文を書いている。(思①) 【発言・プリント】</p>
<p>4 書いたものをペアで交流する。</p> <div data-bbox="400 629 536 797" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>伝え合う</p>  </div>	<div data-bbox="596 622 1003 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><主体的に伝え合うため></p> <p>・交流する際は、チェック項目を作り、どんな技が使えているか、推薦文のよさを見つけて評価できるようにする。</p> </div> <p>・友達と交流して、追記したいことや変えたいことなどを付箋に書いたり、整理したりする時間を設ける。</p>	<p>◎自分の考えが伝わるように工夫して書き表すことに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって、推薦文を書こうとしている。(主①) 【プリント】</p>
<p>5 アドバイスをもとに自分の文章を読み直す。</p>		
<p>6 振り返りをする。</p>		